## 教皇フランシスコ、 オプス・デイ属人区 長にフェルナンド・ オカリス神父を任命

今日の夕方、教皇フランシスコはオプス・デイの属人区長にフェルナンド・オカリス・ブラーニャ神父を任命された。教皇様はその日に行われた属人区の選挙の結果を認証された。

2017/01/24

この任命によって、属人区オプス・デイの総代理であったフェルナンド・オカリス神父は、昨年12月12日に逝去したハビエル・エチェバリア司教を継ぎ、聖ホセマリアの第三番目の後継者となった。

フェルナンド・オカリス神父は、スペイン内戦(1936~1939年)の際に亡命したスペイン人家の8人兄弟の末っ子として、1944年10月27日、パリに生まれる。(1966年修士)、教皇庁立りは、大学で神学を学ぶ(1966年修士)、教皇庁立りの後ナバラ大学で神学を学ぶ(1969年)。その後ナバラ大学で神学を学ぶ(1969年)。その後ナバラ大学で神学の場合に、司祭生活の最初の数年は、特に青年と大学生の司教に専念した。

1986年以降は教理省の顧問を務め、また聖職者省(2003年)と 新福音化推進評議会(2011年) の顧問も務めた。1980年代には 教皇庁立聖十字架大学(ローマ)の 基礎神学の専任教授(現在は名誉教 授)であり、この大学の設立に関 わった一人でもあった。

その神学の著作の中ではキリスト論 に関する著書が際立っている。たと えば『イエス・キリストの秘儀:キ リスト論と救済論の教科書』、『キ リストにおける神の子たち』、『超 自然の参与の神学入門』などが挙げ られる。神学と哲学に関する著作と しては、『行いをもって神と隣人を 愛する』、『自然、恩寵、栄光』 (ラッチンガー枢機卿の序文)。2 013年にはラファエル・セラーノ によってなされたインタビューが 『神、教会、世界について』という 題名のもとに出版された。また純粋 に哲学的な著作としては『マルクス 主義:革命の理論と実践』、『ヴォ ルテール:寛容論』があり、他にも

多くの神学と哲学の論文や共著がある。

1994年からはオプス・デイの総 代理となり、2014年には属人区 の補佐代理に任命された。この区 年間、オプス・デイの前属人区 年間、オプス・デイの前属人区 あるハビエル・エチェバリアへ あるハビエル・の70カ国以上の も も お訪問にも同伴した。1960年代 にオプス・デイ創立者聖ホセラリ にオプスクリバーの近くに ア・若いときからテニスが好き も続けている。

近日中に新しい属人区長は、諸地域 代理、ならびに今後8年間属人区長 を補佐する諸委員会の新しい委員の 人事案を総会に出席した議員たちに 提出する予定である。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/fernando-ocariz-shinzokujinkuchoi/(2025/10/27)